

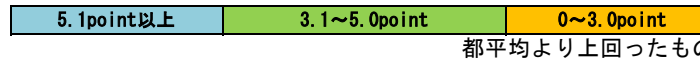
平成31年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査（東京都）を受けて

◆第2学年 児童・生徒の学力向上を図るための調査(東京都)結果

令和元年7月4日(木)実施

※数値は平均正答率(%)

	本校	東京都
国語	67.9	71.7
社会	46.3	50.9
数学	50.7	52.9
理科	46.4	49.3
英語	57.8	55.9

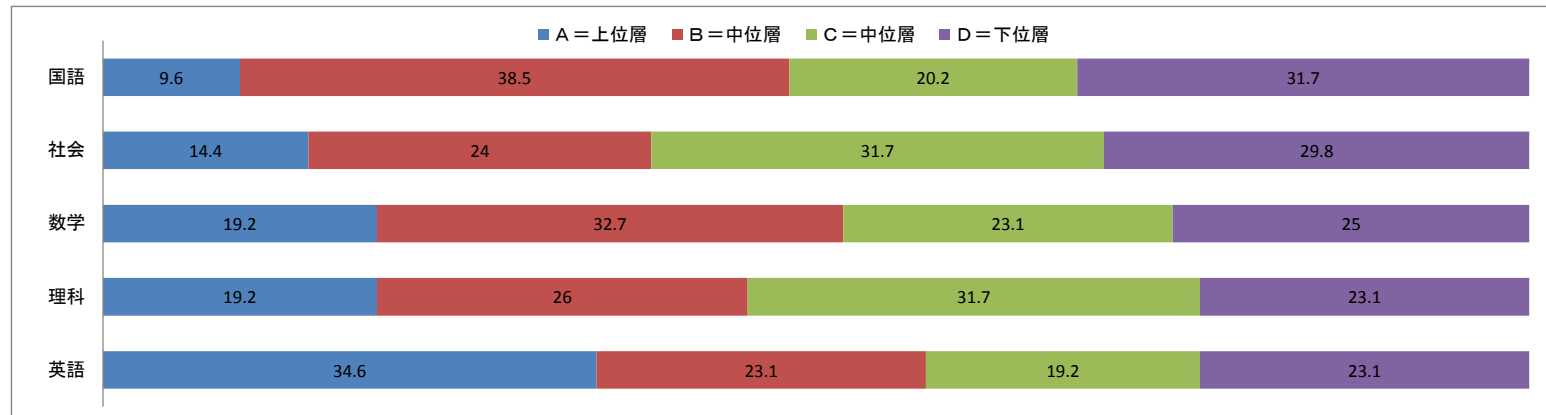


A 教科の内容

	国語			社会		数学		理科			英語	
	本校	東京都		本校	東京都	本校	東京都	本校	東京都		本校	東京都
話す・聞く	72.0	74.8	思考・判断・表現	44.9	48.5	27.1	29.9	40.3	43.5	外国語表現	50.7	40.8
書く	55.7	59.0	技能	55.1	61.5	59.6	59.7	57.6	60.1	外国語理解	59.9	61.9
言語	64.6	68.9	知識・理解	37.1	40.9	58.0	63.6	44.3	47.3	知識・理解	60.6	59.0
読む	75.1	78.9										

(下表の見方)

A～Dは、東京都の正答数の人数分布を1/4ずつに分割した時の本校の正答数分布です。すなわち、25%が東京都の平均と同じ分布ということです。Aが正答数の最も多い層となっています。



《分析》

- ①各教科の平均正答率では、英語は都の平均を上回りましたが、国語・社会・数学・理科は都の平均を下回りました。
- ②観点別の平均正答率では、都の平均を上回っている観点がある教科は英語のみでした。
- ③A層からD層を示す表から、A層とB層の割合の合計が50%以上である教科は数学と英語の2教科であることが分かります。また、D層の割合がすべての教科において23%以上であることから、学習意欲の向上と基礎的な学力の定着が今後の大きな課題であると考えられます。
- ④「生徒質問紙」の結果では、塾や習い事以外の家庭での学習時間が1時間以上である生徒の割合が20%を下回っていました。また、根気強く取り組むことについての肯定的な回答の割合が50%を下回っていました。

《改善策》

- ・各教科で作成した「授業改善推進プラン」をもとに授業改善を図ります。
- ・家庭学習に取り組むことの大切さや取り組み方について学年や教科で具体的に生徒に説明します。
- ・学校での様々な取組を通して、根気強く取り組むことができる生徒を育成します。